

■ 日程表

開催日	時間・場所	講師名	役職等	テーマ
10/10(火)	18:00～19:30 OLIVE SQUARE 2F 多目的ホール	高嶋 博視	博海堂株式会社代表取締役 香川大学客員教授	東日本大震災の教訓 ー災害時に強いリーダーと 組織のあり方ー
10/12(木)	18:00～19:30 OLIVE SQUARE 2F 多目的ホール	所 幸則	写真家 大阪芸術大学客員教授	写真の意味が変わってきた理由とは、 これからの写真は？
11/24(金)	15:00～16:30 工学部 キャンパス 3301講義室	彌田 智一	同志社大学 ハリス理化学研究所教授	“かたち”を利用する ナノ・マイクロ材料化学 ーブロックコポリマー、藻類、 タンパク質ー
12/ 4(月)	18:00～19:30 OLIVE SQUARE 2F 多目的ホール	保坂 亨	千葉大学教育学部教授	学校・教員に求められる働き方改革 ー教員のメンタルヘルスの実態を 踏まえてー



お問合せ先・担当窓口
国立大学法人香川大学 修学支援グループ(研究交流棟1F) 担当:庵原
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 TEL: (087) 832-1151 FAX: (087) 832-1155
E-mail: sogaksen@jim.ao.kagawa-u.ac.jp URL: <http://www.kagawa-u.ac.jp>

■ 申込方法

必要事項①～④を上記のE-mailへ送信するか、直接担当窓口で申し込んで下さい。
当日参加も可能です。

[必要事項]

①参加希望日 ②学部・学科 ③学籍番号 ④氏 名

※当日参加可能ですが、配付資料準備のため、できるだけ事前に申し込みをお願いします。
※申し込みいただいた個人情報は、本セミナーでのみ使用し、これ以外の目的で使用することはありません。
※本セミナーは香川大学学生を主対象としていますが、教職員・学外の希望者も参加できます。

もう一步先の学びへ

香川大学 アドバンスト・ セミナー

■ 開催日時

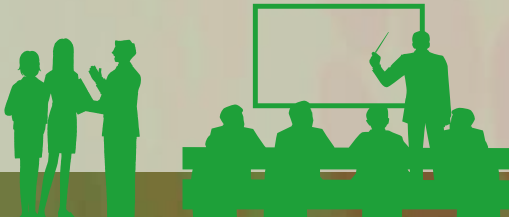
平成29年10月～12月
(月～金曜日) ※詳細は裏面参照のこと。

■ 場所

OLIVE SQUARE 2F
多目的ホール・他

～アドバンスト・セミナーってなに?～

大学の学びは、最先端の研究の現場、リアルタイムな社会問題の現場を舞台として、学生のみなさんが教員とともに考えることによって成立します。みなさんに、こういった舞台で活躍する方々の取り組みにもっと間近で触れてほしい、その原動力となる熱意を感じ取ってほしい、そして「大学で学んでこんなに面白いんだ!」と実感してほしい。
アドバンスト・セミナーは、そういった願いにもとづいて開講されることになった正課外の講座です。講座では、様々な分野で活躍されている方々を講師に迎え、講師と参加者との双方向のやり取りが行われます。アドバンスト・セミナーは、みなさんがこれまでの学びを越えて「もう一步先へ」と歩んでいくための道しるべです。



■ 講演日程・テーマ・講師プロフィール

10月10日🌞 18:00～19:30

『東日本大震災の教訓 –災害時に強いリーダーと組織のあり方–』

高嶋 博視 教授 【博海堂株式会社代表取締役・香川大学客員教授】

今後30年以内に70%程度の高い確率で南海トラフ地震の発生が危惧され、四国では大きな被害が想定されている。当時、海上自衛隊横須賀地方総監（海将）として、東日本大震災時の総指揮官をした経験から、災害時に強いリーダーと組織のあり方について講義する。

また、強いリーダーと組織のあり方を通して、組織を率い、形ある仕事を成し遂げるために必要なことについて、新たな切り口から講義する。

※講義内容の理解を促進するため、可能であれば、『武人の本懐』（講談社）または『指揮官の条件』（講談社現代新書）を一読しておくこと。

10月12日🌞 18:00～19:30

『写真の意味が変わってきた理由とは、これからの写真は?』

所 幸則 教授 【写真家・大阪芸術大学客員教授】

時代の移り変わりによって、変わった写真の役割と、変わらないもの。写真はもともと科学の進歩に委ねられていた。

銀塩の頃は光学と工学と化学の進歩、デジタルカメラの今は光学と電子工学と化学の進歩によるもの。という具合に先端技術によって日々、役割が変わっていく表現手段。「初期の時代の写真神話」＝「真実が写ってる」ことですら実は疑わしいということを知っている人はどれほどいるのだろう。

今の視点でそれについて検証してみましょう。現代における肖像権の曖昧さ、著作権、コンテストや投稿サイトの裏についてもみんなで考えてみましょう。

11月24日🌞 15:00～16:30

『“かたち”を利用するナノ・マイクロ材料化学 –ブロックコポリマー、藻類、タンパク質–』

彌田 智一 教授 【同志社大学ハリス理化学研究所教授】

分子が決まれば物質の性質は決まる。必ずしもそうならないケースがナノ・マイクロスケールで現れる。自然が創る見事な“かたち”を活かせば、身の回りの物質も新たな姿を見せてくれる。身近な工夫、現場の観察、そして自由奔放な想像力さえあれば、“かたち”を活かすサイエンスを楽しめる。

演者の紆余曲折を3つのトピックスで紹介する。専門外の液晶とブロックコポリマーを融合させたこと、遊びで観察した維管束にマイクロスケールのらせん形状の繊維があることなど本気で取り組むようになった裏話も入れて、泥臭くも楽しい材料化学の一端を講述する。

12月4日🌞 18:00～19:30

『学校・教員に求められる働き方改革 –教員のメンタルヘルスの実態を踏まえて–』

保坂 亨 教授 【千葉大学教育学部教授】

公立学校教員で1年以上の病気休職者は全体の1%弱、うち精神疾患と診断された人が6割を占めます。1993年から17年連続で増加後、現在は減少に転じたため、文部科学省は対策の成果が現れたとしています。しかし、定年前の退職者の増加や初任者の実態からは違った様相が見えてきます。大量採用の陰で毎年約300人（1%以上）もの初任者教員が1年以内に退職しています。このうち自死した遺族から公務災害申請がなされ、裁判で学校や教育委員会の責任を問うケースが出ています。初任者のメンタルヘルス、そして教員全体のメンタルヘルスは依然として危険水域にあり、喫緊の課題と捉えて組織的に対応していく必要があります。

一方で、教員の長時間労働を始め日本社会全体に広がる過酷な勤務状況がようやく注目されるようになり、首相を議長とする「働き方改革実現会議」が発足しました。こうした動きを見据えつつ、学校・教員に求められる働き方についてあらためて考えてみませんか。

